

第1回流山市福祉施策審議会 会議録抜粋

発言者	発言内容
宮澤障害者支援課長	冒頭にもお話がありましたが、新しい計画が今年度からスタートしています。その内容を踏まえて、特に障害者支援課としましては基本目標3-1の4、福祉サービスによる支援となってくるかと思えます。計画策定時に一番大きかったのは相談支援、相談体制の充実というところがあったと思えますので、そこを中心に障害者支援課としてはこの計画に盛り込んでいければと思います。
木村高齢者支援課長	先ほど石渡社会福祉協議会会長からお話がありました、骨子案の基本目標3-2、2の権利擁護の推進ですね、令和3年度からの中核機関の方を委託させて頂いていますが、権利擁護が必要な方々にとって必要な支援ができるように、委託という形ではありますが、市としても一緒に権利擁護に関して支援をしていきたいと考えています。
豊田介護支援課長	高齢者支援計画におきましては色々とお意見を頂きまして、策定させて頂きました。ありがとうございました。地域福祉計画の中では介護予防というものが大事であると考えておりますので、その辺をどのようにしていくのかということが考えていかなければならないと思えます。この点に様々な御意見を頂ければと思います。
橋本社会福祉課長	私共社会福祉課では生活困窮の方を支援しているというのが一つ大きなところと思えます。生活困窮の方というのは同時に情報弱者であったりとか、そういったところから結果的に生活困窮の方に繋がってしまったりですとか、あとは他の人にそういったことを言えない、ということですね。つい最近も女性の方の衛生用品に困窮している、という報道もありましたが、なかなか相談の中でも出てこないとか、自分の状態も相談できないとか、そういった相談弱者というところもありますので、そういう方こそ地域全体のチカラで支えていく、というのが地域共生の重要な点であると考えています。そういった点を中心としていくこと、また、私共民生委員・児童委員の連携についても担当しておりますので、専門として活動されている皆さんの連携強化というところも計画の中で反映していきたいと考えています。
秋元子ども家庭部長	私共は子どもをみんなで育む計画の中で子どものこと全般を考えております。その中でも皆様から出されているような、情報発信をどうするのかということについて、今私共の方でも問題になっています。比較的若い世代が多い子育て世代、その方達でも情報を取りに行くことが出来ない、どういう情報が出ているかわからないという悩みを抱えている方が多いというふう聞いております。おそらく情報の出し方、また欲しい情報をうまく出せていない、そういったことがあるのではないかと感じております。また、子育てには地域の方のチカラがぜひとも必要になっております。新しい計画の中でもソーシャルキャピタルを活用するというを謳っております。今回の地域福祉計画の中でも地域のチカラをいかに活かして施策をやっていくかという、まさに同じ悩みを抱えております。そういう視点で今回の計画の中でも取組んでいきたいと考えています。
小谷子ども家庭課長	子ども子育て世代の支援ということで第3期流山市地域福祉計画の中で位置付けられていると思えますが、今コロナ禍におきまして虐待・DVの防止が非常に重要視されている状況でございます。子どもの命に直結しますので、この点を重点的に委員の皆様にお話しを深めて頂ければと思います。また、ひとり親家庭の支援ということもコロナ禍において非常に重要視されております。民生委員・児童委員の皆様におかれましてはひとり親世帯の各種手当の状況確認ということで、お力添え・御協力を頂戴しております。引続き御協力を頂きまして、更なるひとり親家庭の支援に繋がっていければ、ということで、策定に向けて御議論頂ければ幸いです。
秋元児童発達支援センター長	児童発達支援センターでは、基本目標3-1の福祉サービスの適切な利用の推進という項目におきまして、福祉事業所として障害児への直接支援の部分と、相談支援というところでは相談支援専門員がおりますので、障害児相談支援や発達相談を通じて、子育てにまずいたり不安を抱えていたりする親御さんに、丁寧に寄り添っていきたくと思っております。人口が増えておりまして相談を希望する方も増えております。また先ほど子ども家庭課から虐待の話も出ましたが、難しい家庭において難しい発達をされているお子さん、そうしますと関係部署と連携しながら親御さんが1か所の相談で色々なところの支援を受けられる、といったところを丁寧に説明していくなど、改めて相談のあり方を市民の方々にしっかりと伝え、不安をなくしていく、ということ課題にしております。実際の支援においても人口増の状況で今の発達支援センターで足りるのかということも昨年度、第2期障害児福祉計画の中でも謳われておりましたので、その点も将来の拡充に向けて、今何が必要なのかという視点をしっかりと持ちながら計画の中に反映して頂けるようにしていきたいと考えています。